

令和3年度（2021年度） 熊本県ハンセン病問題相談・支援センター事業実施報告書目次  
（期間：2021年4月1日～2022年3月31日）

事業の項目

（1）相談支援事業

- ①電話相談
- ②訪問相談
- ③相談会
- ④ひまわりの会活動支援
- ⑤家族等交流会
- ⑥その他

（2）啓発事業

- ①研修会実施運営
- ②講師派遣
- ③教育機関との連携
- ④回復者等講演会への同行
- ⑤その他

（3）人材育成事業

- ①相談員の研修会派遣
- ②りんどう相談員養成研修会の実施
- ③ハンセン病療養施設訪問

（4）その他

- ①他のハンセン病問題支援機関との連携
- ②コロナ対策
- ③その他

令和3年度（2021年度） 熊本県ハンセン病問題相談・支援センター事業実施報告書  
（期間：2021年4月1日～2022年3月31日）

事業の項目

（1）相談支援事業

電話、面談、訪問、ホームページ（電子メール）、郵便、当事者会（茶話会）などによりハンセン病家族補償金請求、各種公的手続き等に対する相談・支援を実施した。ハンセン病問題相談・支援センター利用者延べ人数は、464人であった。

1. 受付状況：電話469件、来所39件、メール34件、その他169件 計714
2. 相談内容：家族補償金81件、制度政策20件、傾聴31件（重複あり）
3. 支援方法：情報提供69件、傾聴71件、情報提供69件、訪問同行30件（重複あり）
4. 相談者の内訳：家族・親族153人、本人117人

①電話相談

センター設置の電話による相談。月曜～金曜（9時～16時）祭日除き対応。

②訪問相談

自宅もしくは秘密保持の観点から相談者と相談場所を調整して実施。原則月曜～金曜（9時～16時）であるが、相談者と調整の上柔軟に対応。

③相談会

回復者、家族相談会を熊本県、熊本市、弁護士会と連携し実施及び支援を行う予定としていたが、コロナ禍のためオンラインで1回開催された。りんどう相談支援センターからは中修一氏、堀端社会福祉士が参加。TEAMS接続、熊本市健康福祉政策課との連絡調整行った。

④ひまわりの会活動支援

今年度もコロナウイルス流行途切れにくく、やっと1回12月に茶話会の開催ができた。ひまわりの会の方約10名、県担当者2名、相談員3名参加。60代から80代の当事者・家族が今の状況を語り合った。

⑤家族等交流会

サロン形式で交流会やれんげ草の会活動支援を行う予定であったが、コロナ禍で実施できず。前述のひまわりの会に退所者家族の方も参加され、交流ができた。

⑥その他

家族補償金の受給申請について

本年度相談総数464件のうち81件が家族補償金関連の相談だった。開所2年目ということもあり、初年度家族補償金の相談をして補償金を支給された人が兄弟姉妹の請求を相談するケースもあった。語れなかった人が、家族補償金請求をきっかけに語れるようになってきているケースも出てきている。

しかし、まだまだ、やっとのことで電話相談しているというケースも後を絶たず、相談者の立場に立った対応が常に求められる。

## (2) 啓発事業

### ① 研修会実施運営

#### ◇ 国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展

「知らない」を観に行こう。Vol.4 (金陽会作品展)

展示期間：2021年11月1日～11月5日 場所：九州ルーテル学院大学 エカード会館

参加者274名、りんどう相談員 8名参加

「金陽会」の作品を通して伝えたいこと(講演会)

2021年11月3日 講師 蔵座江美氏(一般社団法人ヒューマンライツふくおか)

場所：九州ルーテル学院大学4号館3階 参加者43名、りんどう相談員5名参加

今回の作品展の目的は「ハンセン病回復者の絵画を通して、作者の生き方や思いにふれ、さまざまな人権問題や差別の問題を考えるきっかけとする」として企画開催。

国立療養所菊池恵楓園内に残る約900点を超える作品から家族や故郷をテーマにした作品34点を展示。5日間の作品展には、大学生を中心に274名の方が参加。

講演会では蔵座氏が熊本市現代美術館在職中に国立療養所菊池恵楓園入所者と出会い、以降、「金陽会」作品の調査・保存活動に携わられる中で、全国で「金陽会」の作品展を開催するに至った経緯や、描かれた作品の背景、作品を保存する難しさ等についてエピソードを交え講演。中学生から80代と幅広い年代の43名の方が参加。

#### 【アンケートより】(抜粋)

・壁の中の日常をうかがい知ることができました。なに一つ私達と変わらないのにハンセン病に対しての偏見から不当な扱いを受けた方々の気持ちを感じました。

・偏見や差別によって故郷に戻れず、また家族にも会えないことはとてもつらい思いだったろうと感じました。隔離政策が多くの人々の人生を奪ってしまったのだと思いました。隔離の壁の作品では、壁の向こうの差別や偏見がハンセン病の患者さんを苦しめたのだということが伝わり、差別や偏見、排除を解消するために、まずは正しく知っていこうと思いました。(一部抜粋)



木村副知事に絵画の説明をする蔵座さん



作品を観る学生たち

## ◇朗読劇「あん ～誰にも生まれてきた意味がある～」

オンデマンド配信。視聴期間：2022年2月26日(土)14:00～2022年3月8日(火)

出演：ドリアン助川（朗読）

中井貴恵（朗読）

ピクルス田村（ギター）

原作：小説「あん」ドリアン助川 出版：ポプラ社

配信制作：オンザフィールド 協力：南青山 MANDALA

配信サイト：vimeo、YouTube

※視聴期間中何度でも視聴可能とした。

令和4年2月26日に熊本テルサにて（250名定員）公演予定であったが、コロナウィルスの蔓延防止につき、オンデマンドに切り替えて配信。

総視聴回数 3442回となり、結果、熊本県のみならず、他県にわたり、より多くの方々に配信を視聴いただくことができた。他県にも広がったのは、中井貴恵さんやドリアン助川さんのファンの方々が配信をご覧いただき、その拡散に協力いただいたことや、熊本で配信をご覧になられた方が、他県の知人の方々にお知らせいただいたことも背景にあると思われる。

案内のチラシを配布した箇所は県内図書館、コミュニティーセンター、県内各小中高大学校、県内市町村、県内社会福祉協議会、県内医療福祉関連専門学校、熊本市内皮膚科等の1153カ所。

### 【アンケートより】（抜粋）

- ・ハンセン病については聞いたことがあったが、このように苦しい歴史があることを、恥ずかしながら、今回初めて知ることになった。もっと多くの方に知ってもらいたいと思い、友達にも配信を紹介した。
- ・YouTube 配信があったので、テレビの画面で家族みんなで鑑賞できた。徳江さんの言葉が重く、この歴史を忘れてはならないね、と家族で話をした。



## ◇第6回 医療福祉研修会

日時：2022年1月29日（土）10：00～15：30

研修形態：ZOOM ウェビナーにて配信

対象者：医療、福祉従事者、一般。参加者23名

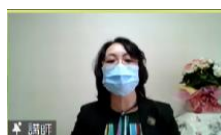
研修内容：

**講義1** 「社会交流会館から歴史資料館へーハンセン病問題と入所者の生きた軌跡を伝えていくための取り組みー」

【講師】菊池恵楓園 学芸員 原田寿真氏

**講義2** 「ハンセン病回復者/高齢者のケアと介護」

【講師】菊池恵楓園 前副園長 野上玲子氏



**講義3** 「体験講話」

【講師】 ひまわりの会会長 中修一氏

**講義4** 鼎談「ハンセン病と新型コロナウイルスについて思うこと」

【講師】 ひまわりの会 会長 中修一氏

熊本学園大学名誉教授 遠藤隆久氏

熊本大学名誉教授 小野友道氏



ハイブリットでの開催予定であったが、コロナ感染拡大の状況からZOOM配信のみに変更して実施。昨年りんどう相談支援センターが開設し活動を継続していく中で、少しずつ様々な方とつながりができ、今回は多くの講師の先生方に参加いただき、講義していただくことができた。参加人数が少なかったため、次年度はさらに多くの皆様に視聴していただけるように研修の案内の仕方を工夫していくことを検討していく。当日は、熊日・西日本新聞の取材が入った。

案内のチラシは、熊本県及び市の医師会、薬剤師会、熊本県ホームヘルパー協会、各市町村福祉担当課、県内大学、県内看護学校、熊本県老人福祉施設協議会、などに送付。

【アンケートより】（抜粋）

- ・今なお、世の中にある差別や偏見に苦しんでいる人々がたくさんいることをしっかりと理解する。
- ・色々と考えさせられる内容でした。特に最後のコロナ差別とリンクしたセッションがとても良かった。

## ②講師派遣

◇令和3年10月11日

タイトル：「～ハンセン病問題に関する相談内容や啓発活動等について～」

対象者：熊本地方法務局の人権擁護委員、

場所：第2合同庁舎の会場と法務局の特別配信のハイブリッドで60分の講義を実施。会場は3名参加（配信受講者の人数は不明）

担当：西相談員

内容： 1. ハンセン病問題の解決の促進に関する法律 2. りんどう相談支援センターについて 3. 社会福祉士について 4. 熊本の歴史 5. 相談支援をつうじてみえる潜在的な差別について講義をおこなった。

◇令和3年11月16日

タイトル：「ハンセン病回復者及びその家族の方の相談・支援の現状」

対象者：熊本地方法務局の人権擁護委員

場所：熊本第2合同庁舎を会場。45分の講義を実施。10名参加

担当：坂田相談員

参加者は人権擁護委員協議会で、研修を企画される方々。

所感： りんどう相談支援センターの取り組みを紹介した。受講者は、日頃、地域でハンセン病の啓発や広報活動をしており、「自分たちはどのように伝えたらよいか」「地域で相談を受けたときにどうしたらよいか」などの質問があった。質問を受けて「当事者の人を聞くとよいですよ」「地域で相談を受けたときはまず、受け止めて、それぞれの相談支援機関につなげるとよい」等の回答をした。

## ③教育機関との連携

◇令和3年6月18日

タイトル：「ハンセン病とその歴史を生きた人々」

ZOOM開催。50分の講義を実施

対象：熊本県立八代中学校1年生

参加者：生徒80名、教員5名

担当：森高相談員



アンケートより

- ・ハンセン病に対し学び、病気について、また、知りながら国がらい予防法という法律で偏見や差別を助長し、多くの犠牲者を作り出したことについて知ることができた。
  - ・「無関心であることの罪」という講師の言葉にとっても考えさせられた。
  - ・知識が足りなかった。正しい知識を持つこと、正しい知識を広めることが大切。二度とこのようなことを起こさないようにすることが大切。
  - ・きちんと自分を持ち、正しいことを正しいといえる人になろうと思う。
  - ・新型コロナウイルス感染症で起こるいじめ、差別、偏見をなくすためのひとりとして過ごせたらと思う。
- 等、自分の身に引き寄せて人権にたいする理解や学習ができた。



#### ④回復者等講演会への同行

中修一氏の講演の支援として、オンライン講演会の会場・接続支援を行った。関西学院大学の蘭ゼミ、水俣第一中学校の講演依頼に対し、zoomでの接続を行った。

#### ⑤その他

中修一氏 DVD「病いの経験」を語る作成

3巻作成 1巻：発症から大阪時代、2巻：恵楓園入所時代 3巻：恵楓園退所後

目的：人権問題の普及・啓発活動への活用と記録を目的として作成。

新型コロナウイルスの流行に伴って生じる啓発活動の制限下において、中氏やりんどう相談員が活用することなどを想定している。また、後者の目的について、中氏には“後世に受け継いでいく”という目的も説明し同意が得られており、中氏からは「次年度は聞き手を想定したものも作りたい(小・中学生版など)」といった意見も聞かれている。今回撮影された動画を人権問題の普及・啓発活動へ活用し、県民の福祉のさらなる向上に向けたきっかけとしたい。

### 「病いの経験」を語る 奄美～岡山～大阪編



熊本県・りんどう相談支援センター

### 「病いの経験」を語る 1970年～菊池編



熊本県・りんどう相談支援センター

### 「病いの経験」を語る 1998年～訴訟編



熊本県・りんどう相談支援センター



### (3) 人材育成事業

#### ①相談員の研修会派遣

今年度は、熊本法務局（人権擁護委員）、九州ルーテル学院大学、八代中学校へ相談員を派遣し研修を行った。

#### ②りんどう相談員養成研修会の実施

りんどう相談員は日常業務として、りんどう文庫のハンセン病関連の書籍やDVD、インターネットのハンセン病関連動画やホームページを見て自学自習を行っている。  
また、常に業務日誌や相談票にて対応ケースについて共有し、対応できるようにしている。

#### ③ハンセン病療養施設訪問

今年度は、九州ルーテル学院大学にて行われた菊池恵楓園絵画クラブ金陽会の絵画展を行った。その際、絵画の搬入・搬出をりんどう相談員も手伝い、菊池恵楓園に入園することができた。開所以来、初めての訪問となった。

他のハンセン病療養所は、コロナウイルス流行が継続したため入園できない園がほとんどであり、訪問する機会を得られなかった。

### (4) その他

#### ①他のハンセン病問題支援機関との連携

ふれあい福祉協会、回復者支援センター、ゆうな協会、菊池恵楓園はじめ各地の療養所とは資料提供や問い合わせ等で連携行なった。

#### ②コロナ対策

今年度も、新型コロナウイルスの流行は衰えることなく、りんどう相談支援センター内でもさらに対応する必要を感じた。そのため、新しく空気清浄・換気機能のついたエアコンを2台、事業費から購入おこなった。

#### ③その他